「いのちの森」を作っている木々に会いに行こう

ほら なんていう木だっけ

調べてみよう、遊んでみよう
新しい発見いっぱいだよ。

葉っぱで調べる身近な樹木図鑑
林 将之・著　主婦の友社・発行
身近な葉っぱ約250種をリアルサイズで掲載

ドングリあそび

●こま

●やじろべえ　軸は竹ヒゴや枝を使う

●音を出してみよう

【虫がいそうなドングリの見分け方】

シラカシ

関東地方でよく見られます。葉は細長くて緑色に光っています。葉の縁が細かくギザギザしているのが特徴。夏の終わりには緑色のドングリができ、冬までに茶色くなった後、帽子をかぶった状態で木から落ちてきます。このドングリはこのままでは食用にすることはできません。

スダジイ

高さは20メートル以上になり、葉が茂ってもこもことした雲のような樹形になります。

葉は楕円形で長さ5～15センチ、表は濃い緑ですが、裏面は黄色です。5～6月に花が咲いた後に実がなり、翌年の秋に熟すと中からドングリが出てきます。このドングリは渋みがなく甘く、大昔から人々の食用になってきました。

ネズミモチ

モクセイ科特有の香りを漂わせ白くて小さな可憐な花が咲くのは5～6月ごろ。秋になると1センチ前後の黒い実がたわわに実ります。この実がネズミの糞に似ていて、葉がモチノキのようであることから、ネズミモチという和名がつきました。

ツツジ

豊島区の花ツツジは元禄時代（1688～1704）に江戸で大ブームでした。1656年九州・霧島山から発したものが、現在の豊島区駒込にあたる染井の植木屋・伊藤伊兵衛により広められたとされています。

区内JR駒込駅もツツジの名所。1910年開業記念に植えられ今でも多くの人の目を楽しませてくれます。

ツツジの染物

ヤツデ

関東から西の海岸沿いで、馴染みのある植物です。丈夫なため庭木としてもよく植えられています。

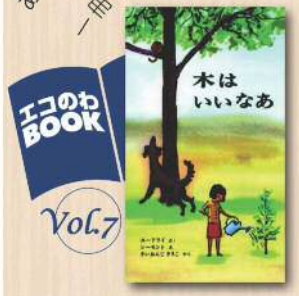
大きな葉っぱは7～11に分かれます。天狗の持つ、魔物を払い風を起こし空を飛ぶのに使ったという大きな羽うちわに似ているので別名「天狗の羽うちわ」と呼ばれています。

大きな葉っぱ

●うさぎのお面

●バッグ

あなたもきっと
木を育てたくなる
一冊を紹介します。



木はいいなあ［絵本］ 原題 A Tree is Nice
［作］ジャニス・メイ・ユードリー Janis May Udry
［絵］マーク・シーモント Marc Simont
［訳］西園寺 祥子　　偕成社・発行

木がたくさんあると森になります。1本だけ家のそばにある木は、夏の間木立の中を風が抜け、秋には落ち葉を、冬には木枯らしから家を守ってくれます。木はいろいろな遊びの場所でもあり憩いの場所でもあります。絵本のどのページからも、今は普段体験できない木々とふれあう場面が溢れています。

最後にこの絵本は、木を植える喜びを伝えて結んでいます。

「いのちの森」とは

人は木材などの確保のため、本来はその場所には育たない木々を、手をかけて森にしてきました。ですが、人が干渉することでできた森は自然災害に耐える力を失ってしまいました。「いのちの森」は古くからその土地に根差している樹種を取り混ぜ植樹することで、自然の力を回復させた森のことです。豊島区は42種類ある在来の樹木を植樹することで「いのちの森」づくりを行っています。